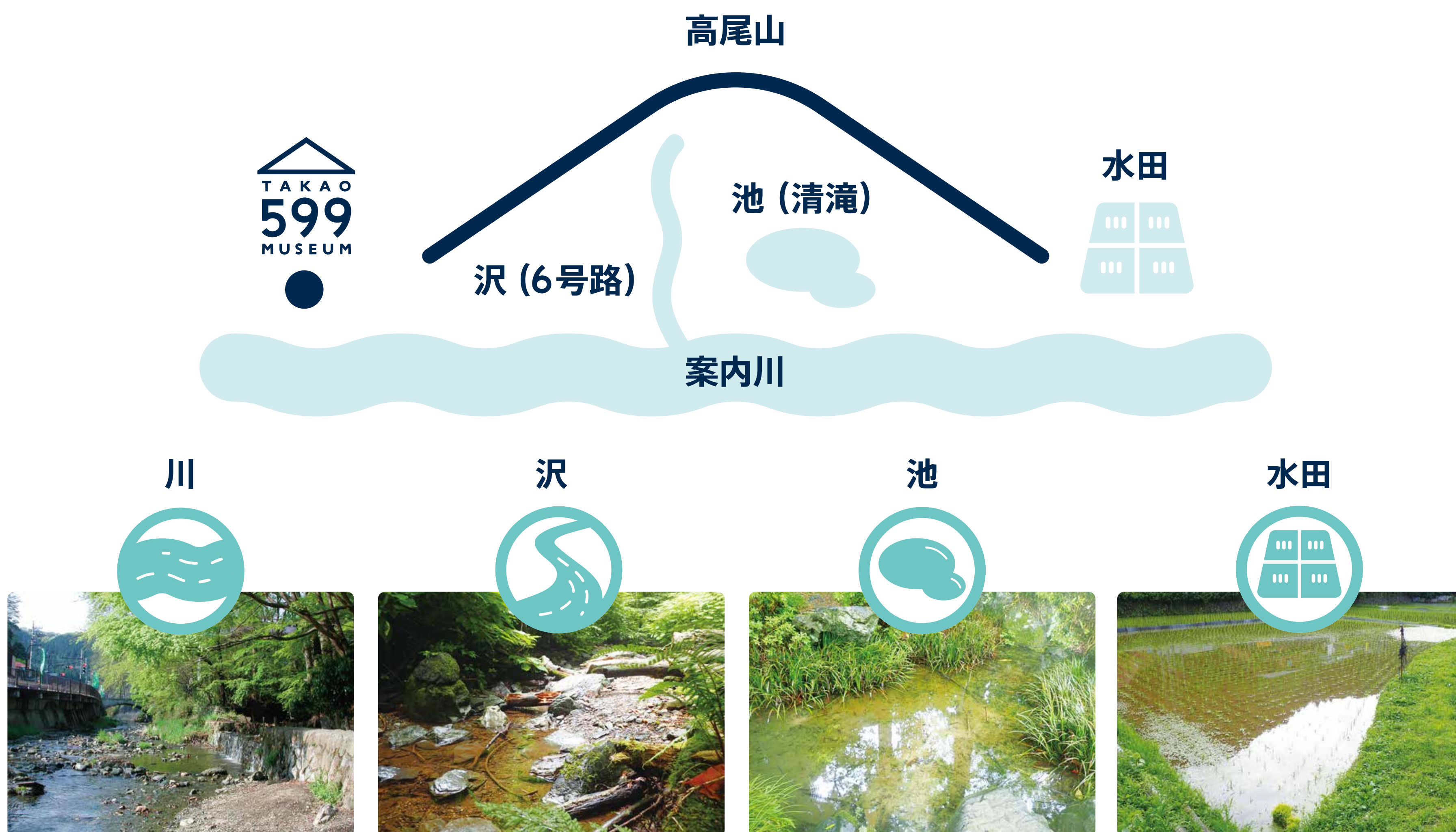


# 知ってる？ 高尾山周辺の 4つの水辺環境

高尾山周辺には川・沢・池・水田といった多様な4つの水辺環境が存在し、それぞれの環境ごとに沢山の種類の生きものが暮らしています。  
本企画展では各環境に生息する生きものたちをご紹介します、彼らが色々な目的で水辺環境を利用していることを解説します。



## 案内川について

夏の時期は石の上でカエルが鳴き、トンボや野鳥が飛び交う一級河川

高尾山の麓、高尾 599 ミュージアムの前を流れている川です。高尾山の自然研究路の1つである6号路を流れる「前の沢」などの沢水が案内川に集まり、案内川の下流では南浅川、浅川、多摩川と順に合流していきます。そうして最終的には東京湾に流れ出るのです。







環境で変わる

高尾山の

# 案内川の生きものたち

## ミヤマカワトンボ

交尾を終えたメスは浅い水中に潜り植物に産卵します。産卵の間は1時間以上、潜水することができます。



幼虫



幼虫

## コオニヤンマ

オニヤンマと違い、サナエトンボ科のトンボで、左右の眼が離れています。幼虫(ヤゴ)は川の流が緩やかな落ち葉の下に潜みます。



幼虫

## カジカガエル

4～6月にかけて「フィーフィー」と美しい鳴き声で鳴きます。川に流されないために、手足には大きな吸盤と水かきがあります。



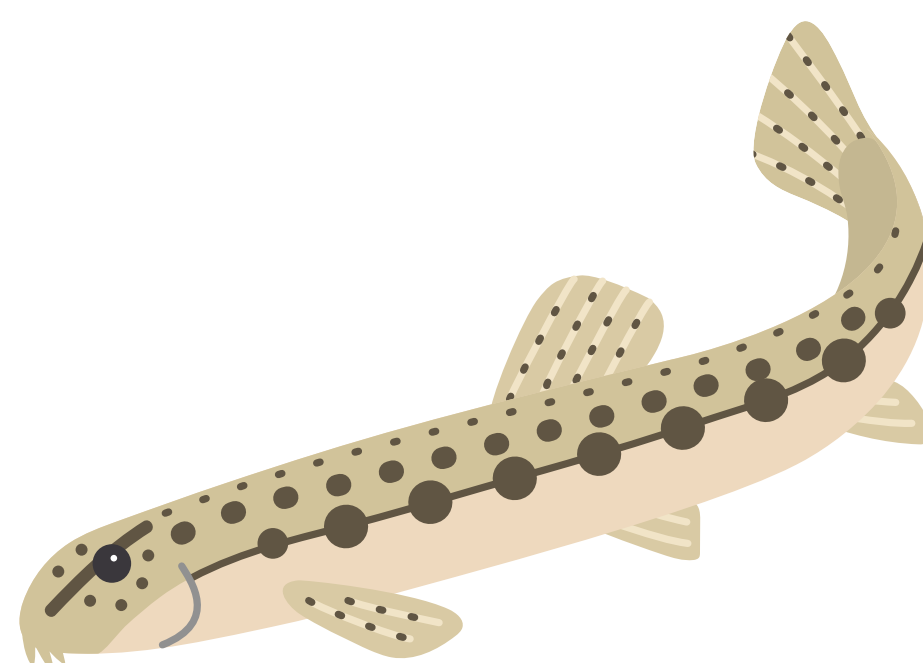
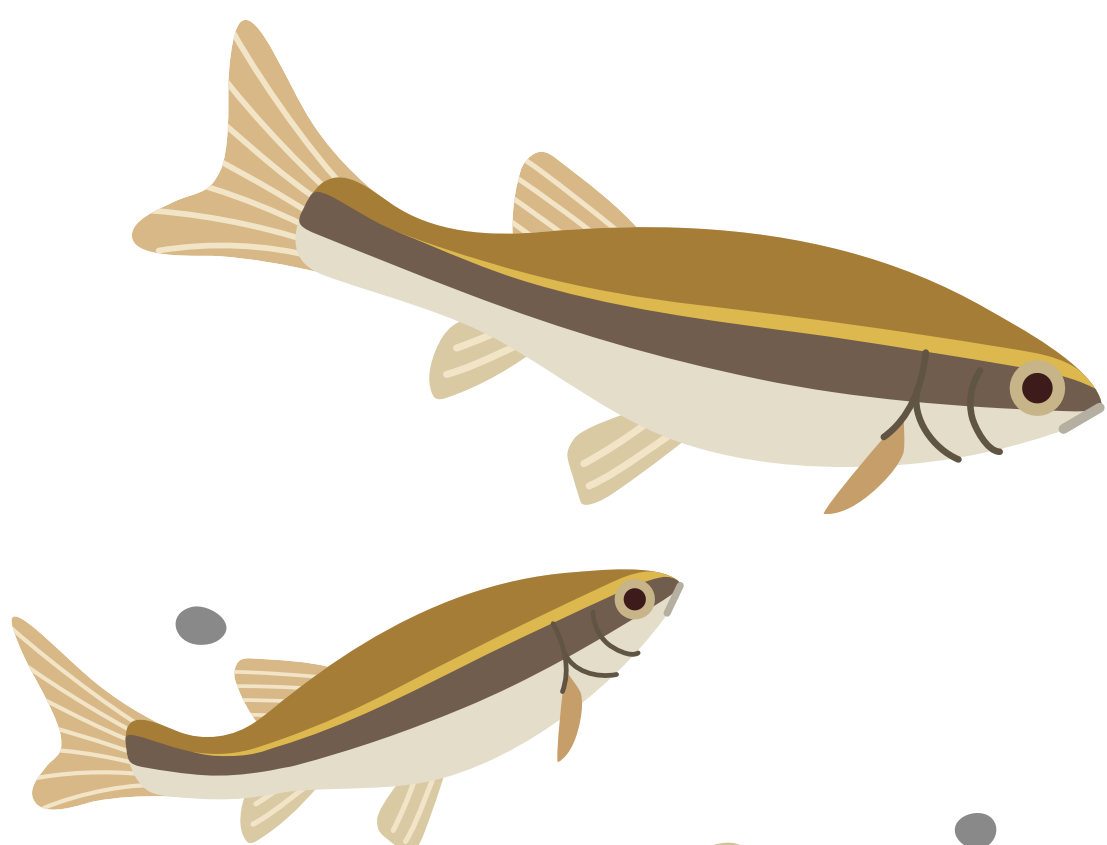
## ツチガエル

流れの緩やかな場所を好みます。カエルの中では珍しくオタマジャクシのまま冬を越すものもいます。



## アブラハヤ

案内川でもっとも多くみられる魚です。4～7月にかけて砂と小石が混ざった場所で集団で産卵します。



## ヒガシシマドジョウ

川の中の砂底に住み、よく砂にもぐり込みます。砂ごと口に入れ、小さな生きものを食べます。

## 川辺の野鳥たち

川辺では、野鳥がエサを探し歩く姿、石の上や水に浮かび休んでいる姿がよくみられます。野鳥の動きが少なく、周囲に枝や葉のような遮るものがあまりないことから、山の中の鳥よりも観察がしやすいです。案内川では、カモ類のような誰もが知っている鳥や、サギ類のような大きな鳥、セキレイ類やカワセミなどの小鳥も発見できます。案内川は鳥たちにとって恵まれた自然環境と言えるでしょう。



## セキレイ

尾羽を上下に振りながら水辺を歩きまわる姿がよく見られます。水中や岩かげなどにいる昆虫、ときには飛んでいる昆虫などをつかまえます。



## カワセミ

直接水に飛び込み、主に魚をとらえます。大きい獲物は木や石に叩きつけて弱らせてから飲み込みます。川沿いの垂直な土の壁に横穴を掘って巣にします。





環境で変わる

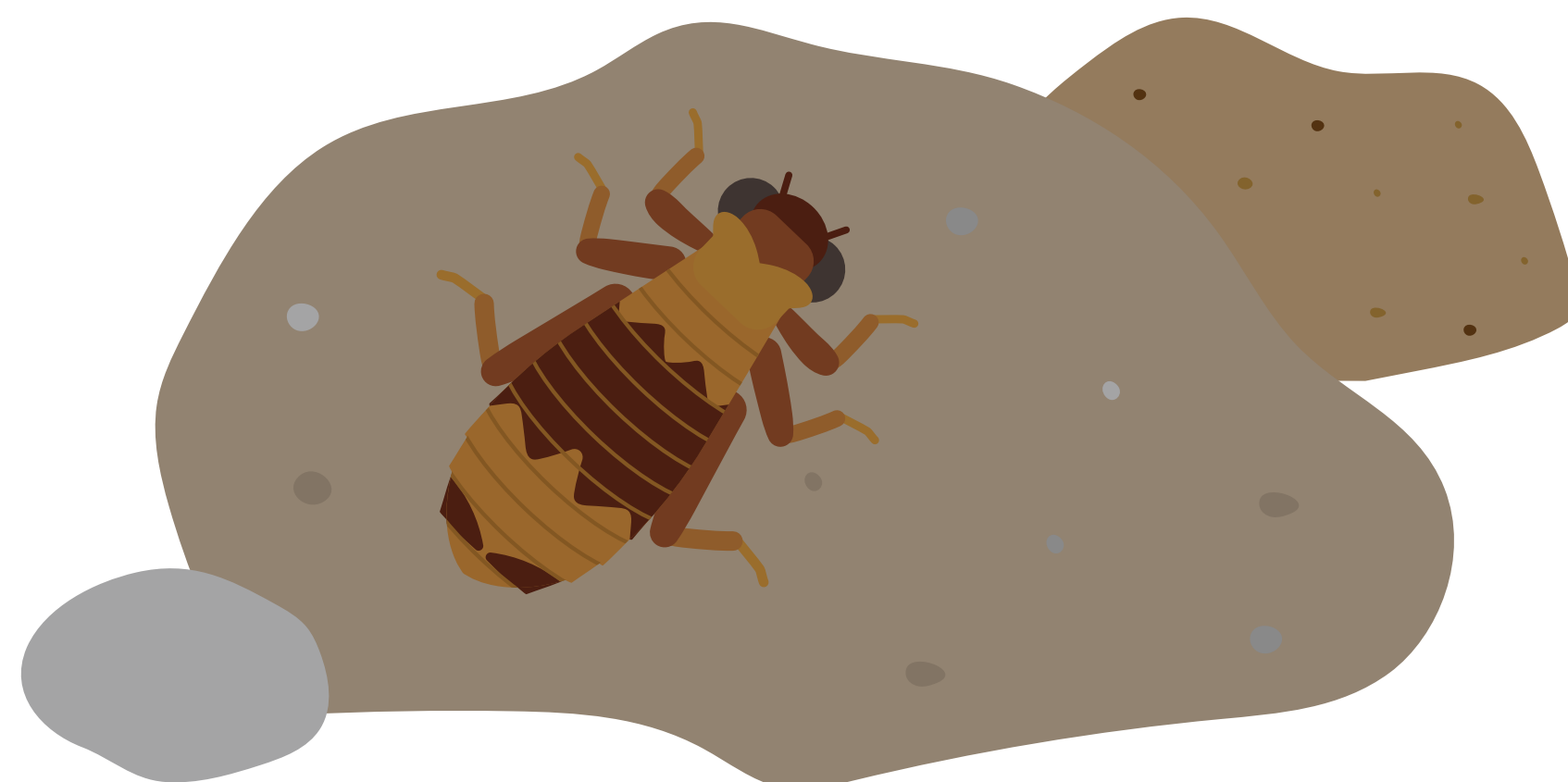
高尾山の

# 沢の生きものたち



## ムカシトンボ

成虫は4～5月頃に沢沿いの植物に産卵します。幼虫は沢の石の下などに潜み、約7年間をかけて成長した後、地上に上がって羽化します。



## タゴガエル

3～4月頃に沢沿いの岩の隙間や土の穴の中で繁殖します。その際にオスは「グググッワン」と鳴きメスを呼びます。



タゴガエルの繁殖環境



タゴガエルの卵塊(らんかい)



## ミソサザイ

沢沿いを跳ね歩きながら昆虫やクモを探して食べます。高尾山では冬から春にかけて観察される体の小さな鳥です。

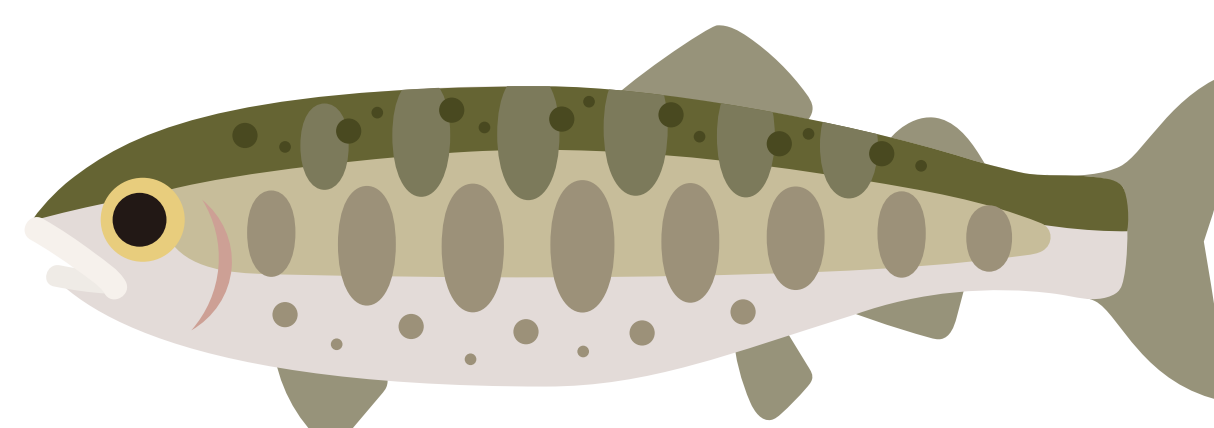
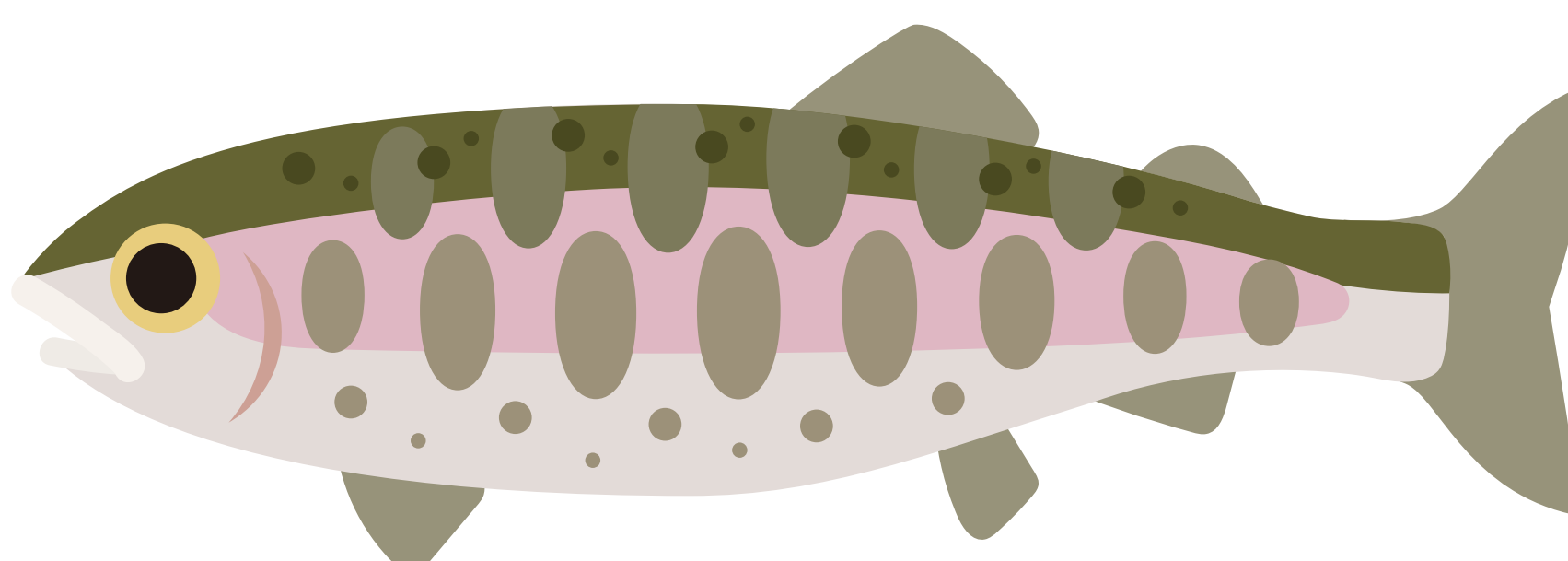


## ヒバカリ

小魚やカエル、ミミズを沢沿いなどで捕まえて食べます。非常に小柄なヘビで性格はおとなしく、毒は持ちません。

## ヤマメ

一般にも有名な川魚で、沢の中で主に川虫を食べます。繁殖期になるとオスは美しいピンク色の婚姻色(こんいんしょく)が目立ちます。







環境で変わる 高尾山の

# 池の生きものたち

## ルリボシヤンマ

周囲に樹林があり、植物が多い池に産卵に訪れます。成虫の身体には、青、緑、黄色が混ざったような斑点があります。



幼虫



2月末には、つぶつぶの卵塊がみられます。

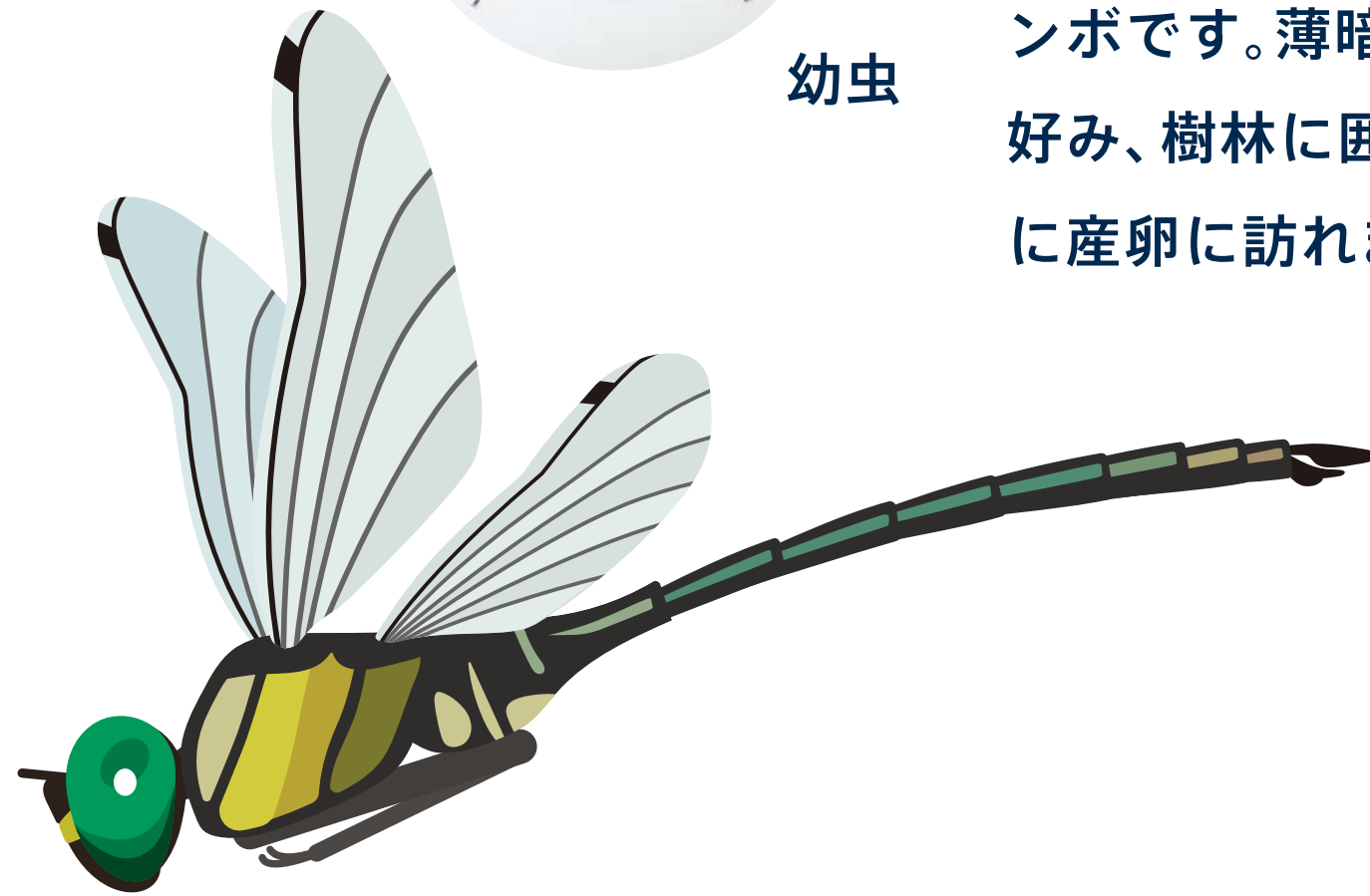


## タカネトンボ

オス・メスともに金属光沢が美しい緑色のトンボです。薄暗い環境を好み、樹林に囲まれた池に産卵に訪れます。



幼虫



## ヤマアカガエル

2月に産卵のため一度冬眠から目覚めて池に集まります。産卵後は再び春になるまで冬眠します。冬眠の時は土に潜るものもいますが、水中で冬を越すものもいます。

## アズマヒキガエル

オタマジャクシからカエルになったばかりの大きさは約8mmでとても小さいですが、成長すると15cmほどに育ちます。高尾山で一番大きいカエルです。早春には池で複数のオスがメスを奪い合うカエル合戦が起きます。



3月末には、ひも状の卵塊がみられます。



## モリアオガエル

森林が周囲にある池で見られます。指には大きな吸盤があり、主に樹の上で昆虫を食べて生活しています。背中には茶褐色の模様が出る個体と出ない個体があります。



5月末には、泡状の卵塊がみられます。





環境で変わる

高尾山の

# 水田の生きものたち



## アキアカネ

水田で繁殖するトンボの代表種で、湿っている泥の上で産卵します。オスは成熟すると腹部が真っ赤になります。



## シオカラトンボ

平地の水田などを好み、水面に腹部を打ち付けて産卵します。オスは成熟すると塩を被ったように白粉を帯びます。



## アカハライモリ

6～7月頃に水田の中で交尾し、水草などに卵を産み付けます。腹部の赤色は毒を持つことを天敵に知らせる警告色だとされています。

## ニホンアマガエル

6～7月頃に水田などで繁殖します。一般的に緑色で知られていますが周りの環境に合わせ、体色を変化させます。



灰色に変わった  
ニホンアマガエル



## ヤマカガシ

水田や池にいるカエルを食べます。毒を持ったヘビで、主にヒキガエルを食べることで体内に毒を貯めるようです。



## アオサギ

水田や池ではカエルやヘビをクチバシで捕らえて食べます。樹上で木の枝を材料に巣を造り、群れで繁殖します。



珍しい！

八王子市で記録がある

# 希少な生きもの6選



## ゲンジボタル

成虫は6月頃に発光します。小川環境の水質汚染や街灯の増加などの影響で数が減っています。



## カジカ

山地のカジカは海に降らないため、河川環境の水質汚染の影響を強く受けてしまいます。



## トウキョウサンショウウオ

バナナ型の卵を水田や池に産みます。水田の減少や人為的な採取により数が減っています。



## ヒガシヒダサンショウウオ

沢の奥地、源流部で卵を産みます。沢環境の水質汚染や人為的な採取により数が減っています。



## ニホンスッポン

過去に人為的に河川へ放流されて、在来のスッポンとの交雑が進んでいる可能性があります。



## ヤマセミ

溪流沿いの崖地に穴を掘って営巣します。河川改修による繁殖地の改変で数が減っています。

### 高尾山の水辺が育む生命たち

#### 水辺環境はあらゆる生命たちが 共同で暮らしているシェアハウス

高尾山周辺では多種多様な生きものたちが住みかや餌場、繁殖地として水辺環境を利用することをご紹介しました。本企画展を通して、彼らが繁殖し子供が生まれ、育っていく上で水辺環境の存在がいかに大切かを知っていただけたなら幸いです。現在、案内川や清滝駅の池にはゴミが目立っています。彼らの暮らしのためにも、水辺へのゴミの投棄は絶対にやめましょう。



ミヤマカワトンボ



アオサギ



モリアオガエル



7月・8月

高尾山で見られる！

# 水辺の生きものの観察スポット



## モリアオガエル

薬王院の側溝にはモリアオガエルが潜んでいます。「コロコロ」という鳴き声が聞こえてくることがあります。



## ヘビトンボ

夜間、街灯の灯りに飛んできた成虫がみられます。



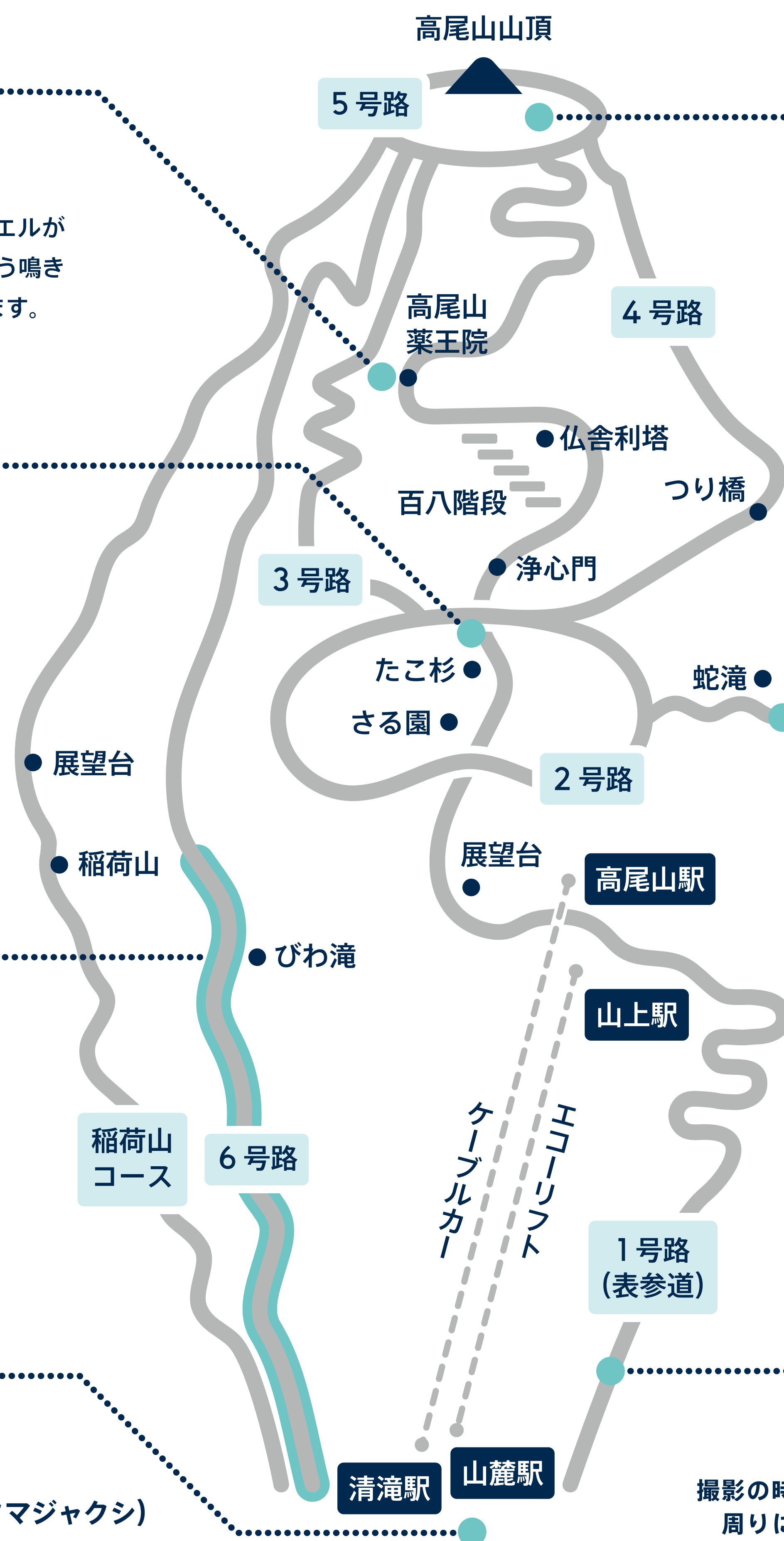
## ヤマメ

道沿いの沢をのぞくとヤマメが泳いでいるかもしれません。



## モリアオガエル(卵・オタマジャクシ)

池に生える植物の合間に泡状の卵塊がみられます。  
池をのぞくとふ化したオタマジャクシがみられます。



雨が降るとアズマヒキガエルがよく現れます。ヒキガエルを食べることで知られるヤマカガシもしばしば現れます。

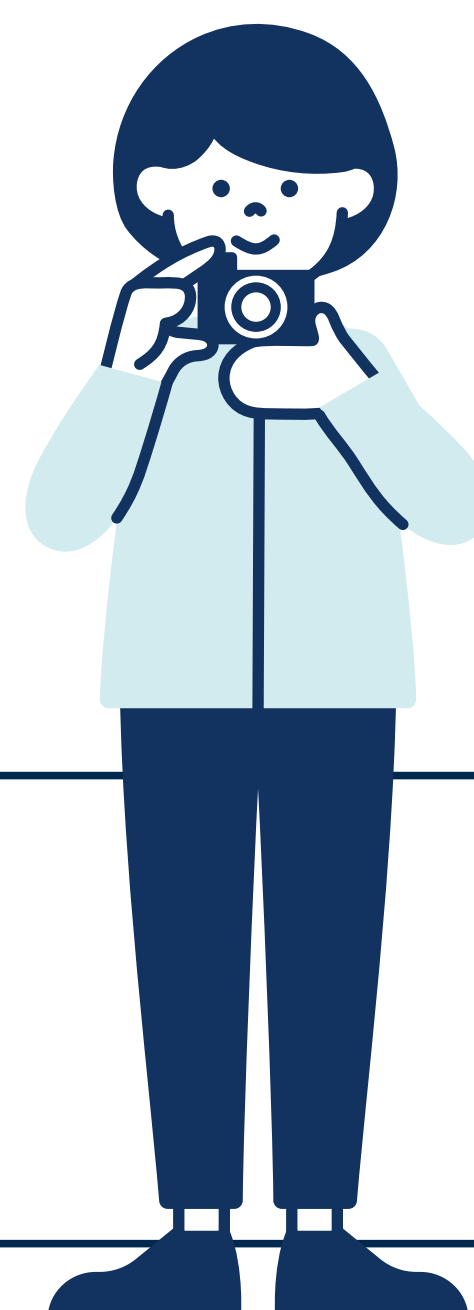


沢沿いの道を歩いていると、カジカガエルの鳴き声が聞こえたり、カワトンボがみられるかもしれません。



沢沿いの道にはキセキレイが、雨が降った後の道路にはサワガニがいるかもしれません。

撮影の時は  
周りに  
気を付けましょう



## お願い

- ・登山道から外れない場所で生きものを観察してください
- ・毒をもつ生きものもいるため、むやみに触らないようにしましょう
- ・生きものたちの暮らしがあるので、そっと近づいてやさしく見守ってください